



2024年度
(令和6年度)
事業報告

自 2024年4月 1日
至 2025年3月31日

公益社団法人 京都府医薬品登録販売者協会

(1) 公益目的事業Ⅰ

研修会事業

令和4年3月29日に発出された(薬生総発0329第4号)によると、

1 「薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令」において、一般用医薬品販売業者等は、医薬品の販売又は授与の業務に係る適正な管理を確保するため、薬剤師、登録販売者及び一般従事者に対する研修を実施することが義務付けられている、となっています。

また、研修省令による改正後の医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則において、一般用医薬品販売業者等は、その薬局、店舗等において業務に従事する登録販売者に、厚生労働大臣に届出を行った研修実施機関による研修を毎年度受講させなければならないとされている、所です。

2 研修の受講対象者、時間数等について

① 研修の受講対象者

一般用医薬品販売業者等は、当該販売業者等の下で一般用医薬品の販売に従事する全ての登録販売者を研修の受講対象者とする。

② 研修の時間数

一般用医薬品販売業者等は、研修受講対象者に対し、毎年度、少なくとも計12時間以上、定期的かつ継続的に研修を受講させること。

③ 研修の実施内容等

一般用医薬品販売業者等は、研修の実施内容等が、Ⅱの1の⑤を満たすものであることをあらかじめ厚生労働省のホームページ等で確認すること。

④ 研修の修了の確認等

一般用医薬品販売業者等は、研修の受講対象者が研修を受けたことを修了証等で確認し、その旨を適切に記録・保存すること。

3 自主点検

行政担当部署は、薬事監視等の際に一般用医薬品の販売に従事する全ての登録販売者に対して外部研修実施機関が実施する研修を受講させていること等を確認すること。

なお、一般用医薬品販売業者は、登録販売者が研修を適切に受講していることを都道府県等が確認するため、許可申請又は許可更新申請の受付時又は薬事監視等の際に、研修修了証の提示を求めた場合、速やかに提示できるようにしておくこと。

これらが厳格に定められています。公益社団法人 全日本医薬品登録販売者協会は外部研修機関として認定され、厚生労働省の後援を受けて実施している研修会であり、その統一したカリキュラムで実施している我々の研修会は、京都の全医薬品登録販売者が受講できる研修会です。

今期の法定研修会について報告します。

1 基準講習会 第1回 登録販売者生涯学習研修会

令和6年6月27日(木) 午後1時～午後4時30分 会場 ラボール京都2階ホール

参加者 合計139名

B-1 講座 「登録販売者として確認しておきたい最新情報」

講師 京都府健康福祉部薬務課課長補佐兼係長 石倉 章男先生

B-2 講座 「登録販売者として求められる理念・倫理」

講師 京都市保健福祉局医療衛生企画課薬務係長 吉岡 政純先生

A-1 講座 「この症状、ストレスかも」

講師 救心製薬(株) 大阪営業所学術部 古賀 陽子先生

2 第2回生涯学習研修会

令和6年9月16日(月・祝) 午後1時～午後4時30分 会場 ラボール京都2階ホール

参加者 合計 131名

A-2 講座 「皮膚のかゆみ、肌荒れ」

講師 田辺三菱(株) 松村 俊樹先生

A-3 講座 特別講座「一般用医薬品の薬理学」DVD研修

講師 東京薬科大学名誉教授 渡辺 謙三先生

3 全国統一薬事講習会 第3回生涯学習研修会

令和6年10月17日(木) 午後1時～午後4時30分 会場 ラボール京都2階ホール

参加者 合計 127名

B-3 講座 「薬事関係法規・制度、適正使用、安全対策」

講師 京都府健康福祉部薬務課課長補佐兼係長 石倉 章男先生

B-4 講座 「リスク区分等のあった変更があった医薬品」

講師 京都市保健福祉局医療衛生企画課薬務係長 改田 千恵先生

A-4 講座 「熱だ、風邪かも」

講師 第一三共ヘルスケア(株) 萩谷 誠先生

4 第4回生涯学習研修会

令和5年12月8日(日) 午後1時～午後4時30分 会場 ラボール京都2階ホール

参加者 合計 126名

A-5 講座 「咳、痰、呼吸困難」

講師 第一三共ヘルスケア(株)学術部 萩谷 誠先生

A-6 講座 「生理痛がある」

講師 第一三共ヘルスケア(株)学術部 萩谷 誠先生

(2) 公益目的事業Ⅱ

① 医薬品適正使用普及啓発事業

医薬品は生命関連商品である。この医薬品の特殊性と安全性を府民に理解していただくために、医薬品の適正使用に関する普及啓発事業はこれからも大いに必要である。特に最近の若年層によるOTC医薬品の乱用、いわゆるオーバードーズは社会問題化している。若者のオーバードーズは、その個人が置かれている社会的な背景が関わっている場合が殆どであるが、一般用医薬品販売のプロとしての我々には、ゲートキーパーとしての役割があるのも事実であり、一層の研鑽と対応能力を身に着けることが重要である。

薬店が「かかりつけ薬店」になり、各量販店やチェーン店、薬局などに勤務する【医薬品登録販売者】も、地域住民の良き相談相手として「頼りになる専門家」として認識してもらえる様に、令和6年10月17日(木)～23日(水)に実施された「薬と健康の週間」に合わせて、10月17日(木)、ラボール京都において、「薬の知識・セルフメディケーションハンドブック」小冊子を会員、並びに生涯学習一般受講者に配布し、店頭から消費者に趣旨を説明しながら手渡していただきました。

② 医薬品等の販売姿勢の適正化、流通の正常化の促進事業

京都府薬剤師会、京都府医薬品小売商業組合、全薬協近畿ブロック会などと常に連絡を取り、医薬品の販売姿勢の適正化や、医薬品流通の正常化に関して、忌憚のない意見交換を行いました。

③ 献血に関する事業

献血の重要性は多くの人が認識するようになってきました。身近な場所で、すぐに出来る、という手軽さを訴えて、多くの買い物客でごった返す「イオンモール京都五条店」の駐車場をお借りして、京都府赤十字血液センターの職員さんの協力のもと、献血車を2台乗り入れてもらい、大勢の方々にご協力をいただきました。暑さで大変でしたが、出入り口で献血をお願いする呼びかけを担当し、午前10時30分から午後3時までの数時間、東入り口、西入り口に分かれて実施しました。参加者の理事の中では、西川常務理事しか献血できるものがない。今後とも会員さんにも、一般の方にも一人でも多くこれに参加していただけるよう運動を続けます。

令和6年7月16日(日) 午前10時30分から午後3時まで

献血場所 イオンモール京都五条 出入口

協会スタッフ 西川隆二、坂田寿士、柳田実、畑忠夫、米田宗一、理事 5名参加

400ml献血 受付け者数 66名

献血者数 50名

不適格者数 16名

(3) 公益目的事業Ⅲ

① 京都府委託事業「薬草に親しむ会Ⅱ」薬膳インストラクター養成講座 開催事業

薬膳インストラクター養成 中級講座34名、上級講座41名、

多数の応募者の中から選ばれた受講者であり、真剣に取り組んでいただき、勉強していただきました。

上級講座は3月9日(日)に京都府庁 旧議場をお借りして、薬務課橋理事より西脇隆俊京都府知事名入りの修了証書を授与していただきました。これから地域社会で、研鑽の成果を発揮し、住民の健康寿命の増進に邁進していただけると期待しています。

来期は第7期生を募集し、新たな3年間が始まります。素晴らしい薬膳インストラクターを養成し、「医薬品登録販売者」と共に、地域者秋の健康情報発信基地として活躍してもらう事を期待しています。

② 協会女性部研修事業 パール会

我が組織では女性会員の比率が比較的高い。しかし、役職についている女性会員は少ない、という現実がある。我が組織に限らず、女性の社会進出はここ数年で驚くほど高まっている。しかし、役職についている女性の比率はまだまだ少ない。つまり、一般社会での男女間格差は、厳然として存在していると言えるのではなかろうか。

そのため、我が組織には女性部があり、女性部研修会を継続して開催し、女性独自の目線での活動を増加させ、女性の社会進出を促し、男性をも含めた社会全体の認識を変化させていく必要があると考える。

今後とも社会問題、経営ノウハウ、医学・薬学の研鑽、特定ジャンルにこだわらず、女性の立場で、女性自らが企画し、取り組む女性部研修会を継続していきたいと考えている。

今回は学術的な観点で、食品分析のプロにお願いし、栄養学的見地からの研修会であった。有名講師であり、一般参加も呼び掛けて、盛況であった。これからもシリーズとして進めていきたい。

日 時 : 2024年12月15日(日) 11時から12時30分

会 場 : 知恩院 和順会館 研修室

参加者 : 協会員 15人、一般参加者 23人

講義内容 : 「現代社会人の栄養失調・ミネラル不足について」

講師 中戸川 貢(加工食品アドバイザー) 先生

(4) 総会事業

(公社) 全日本医薬品登録販売者協会総会(令和6年度の総会)

2025年6月19日、東京の全薬協会館で開催予定。

(公社) 京都府医薬品登録販売者協会総会(令和6年度の総会)

2025年5月25日(日) 午前10時~11時

京都アスニー 研修室にて開催予定。

(5) その他の事業

(1) 新年大会事業 令和7年1月11日(土) ホテルグランビア京都において、盛大に開催されました。

前川敏子理事、橋本育子両理事の府知事表彰の記念品贈呈式をおこない、顧問の先生方、国会、府議会、市議会の先生方や全薬協近畿ブロックの仲間もはせ参じて下さり、にぎやかに実施しました。

(2) 会報「京薬協新年度号」の発行(年1回4月)「会員通信」年6回発行

(4) 関西広域連合に重なる大阪、兵庫、奈良、京都の各県の協会が集まり、近畿ブロックを組織しています。各地とも厳しい状況ですが、しっかり結束して地域の違いを超えて協力して事業に推進しています。

(5) 賠償責任保険の加入促進を行いました。全会員156名の中、A会員は全員加入、B会員には希望者のみですが、僅かな掛け金で加入できる安心の賠償責任保険制度申し込みを受付け、数名が登録しました。

以上